

私たちは「虐待ゼロへ いのちにハグを。とちぎ」を応援します

藤井産業株式会社

FUTABA フタバ食品

栃木トヨタ自動車

新豊建設株式会社

創業明治十五年
宮島醤油株式会社

co-op コープ とちぎコープ
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

一般社団法人
栃木県医師会



獨協医科大学病院

益子カントリー倶楽部

学校法人やまざき学園 認定こども園 金井台幼稚園／
認定こども園 西那須野幼稚園／みふみ認定こども園
■西那須野ロータリークラブ

（順不同）

いのちにハグを。サポーター

カンガルーOYAMA 会長 大久保幸子、立正大学 教授 大竹智、
子ども虐待防止ネットワークとちぎ 代表 福田雅章、
栃木フォスタークリングセンター 代表理事 畠山憲夫、歌う海賊団ツッ、
NPO法人レインボーワーク 代表理事 宮田里枝、
(一社)栃木県若年者支援機構 代表理事 中野謙作、
とちぎ男女共同さんかくねっと 理事長 大澤里香（順不同・敬称略）

企画監修

栃木県

TOCHIGI POLICE
栃木県警察



NPO法人とちぎ多胎ネット理事長
なんぶ ゆうこ
南部 裕子 さん

1978年生まれ、2014年に多胎児を育てる家族の会「さくらんぼ小山会」を立ち上げる。23年に栃木県内全域の多胎児家庭支援を目指してNPO法人とちぎ多胎ネットを設立。

三つ子を育てる母親が生後11ヵ月の次男を床に投げ落として死なせた事件を覚えていました。この事件は2018年、愛知県で起こり、双子や三つ子などを育てる家庭に衝撃が走りました。「他人事ではない」と。実は、多胎育児家庭の虐待死は単胎育児家庭と比べて2.5～4倍という調査結果があります。

現在、中学1年生の双子を育てています。妊娠が分かつた時にはとてもうれしかったのですが、だんだんと不安になつて

衝撃走った暴行死事件

きました。「双子はどう育てたらいいの？」子どもはかわいい、育児書に書いてあるように子どものおなかのすき具合に合わせて見ながら授乳したい、あやめたいでもそれは双子育児は難しいことでした。それぞれに合わせると、一日中授乳か抱っこしていることに見えます。多胎児は小さく産まれてくるので母乳やミルクを吸う力が弱くて時間がかかるのです。

ふと沸いた気持ち…

理由が分からず交換に、また一緒に泣き続けることもあります。泣きやまなくて疲れ果て夫の終業時間を持つて早く帰つて来て」と電話をしました。泣きやまなくて疲れが、仕事で帰れないことがありました。電話を切つた途端、涙があふれ双子を寝かせた布団に倒れるよう横になり天井を見上げて「3人で死んでしまおうか」と思ったこともあります。育児に疲れ果て、精神的な余裕がなくなつていきました。そんな中で救いになつたのが、悩みを聞いてもらえる場でした。助産師さんから「同時授乳」など多胎ならではの育児方法を教えてもらつことで気持ちが楽になりました。こうした経験から2014年に小山市内で多胎サークル「さくらんぼ小山会」を作り、23年9月には栃木県内全域での活動を目指しNPO法人とちぎ多胎ネットを立ち上げました。あまり知られていませんが、栃木県は分娩（ぶんぶん）千件当たりの多胎児出産が全国平均より多いです。スタッフは多胎育児

力を入れているのは、妊娠期からサポート、プレファミリー教室です。多胎育児の楽しさや大変さなど心構え、便利な育児グッズなどを伝えてきましたが、実は出産後を見据えた活動もあります。何か困ったことがあったときに相談できる人を出産前からつくります。交流会を開いています。言葉に出さなくて表情からSOSをキャッチして声掛けをしています。

11月17日は日本多胎支援協会の全国フォーラムを下野市の自治医科大学で開きました。県内外から約100人参加し、育児家庭、医療専門職、支援者、行政のつながりの大切さをあらためて実感しました。単胎も多胎も子育てに奮闘する家庭を優しく見守る社員であつてほしいと思います。

経験者も多く県助産師会がサポートしてくれています。

母親たちの孤立を防ぐ



多胎育児支援者らが集まった全国フォーラム
=17日、自治医科大学(日本多胎支援協会提供)

「児童虐待かも…」と思ったら、すぐにお電話ください

無料 ※一部のIP電話からはつながりません

いはく
児童虐待対応ダイヤル
189

子どもへの虐待のない社会を目指して

下野新聞

子ども虐待防止啓発キャンペーン

虐待ゼロへ

いのちに
ハグ"を。
とちぎ

section 27

企画・制作 下野新聞社ビジネス局
企画監修 栃木県
監修 栃木県警察本部

双子や三つ子のかわいらしい仕草に思わず微笑んだことがある人は多いでしょう。しかし多胎育児は心身の負担が重積し、育児不安や児童虐待などのリスクが高いとされています。NPO法人とちぎ多胎ネット理事長の南部裕子さんは県内全域を対象に多胎育児家庭のサポートをしています。11月は「児童虐待防止推進月間」。